

本学入学生の和裁の実態調査報告

—和服に関する知識と理解へのアプローチ(2)—

古 幡 充 代

I 緒 言

1979年(紀要3)の実態調査では、主として短大入学以前の小・中・高の各学校に於て、家庭科・家庭一般の学習状態と、日常生活の中で和服に関する質問により、その知識について調査し実態の一部を把握することが出来た。

その結果、日常生活では活動的な洋服が主流であり、和服ばなれははっきりと現れているが、きもに対する憧憬と、着てみたい希望は依然として大きいことが解った。「自らづくり」「自ら着てみる」ことが被服構成指導上で重要である。又技術的な面は運針をはじめとして、経験が非常に乏しいことも、ともすれば実習を敬遠する一要因とも考えられるので、今回は更に入学前後の被服構成実習の体験をもとに、学生自身の日常生活の中で和服の用いられ方と、「大裁女物単衣長着」を中心として、縫製の実態・興味・意欲について調査したので報告いたします。

II 調査方法

1. 調査対象

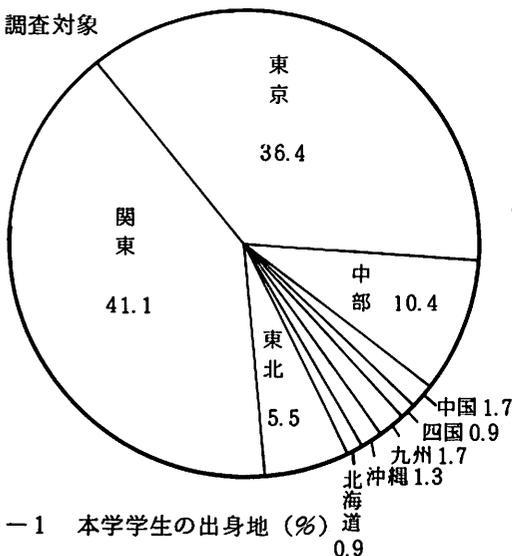


図1-1 本学学生の出身地 (%)

昭和54年4月本学家政科入学生、213名を対象とし同年7月にアンケート形式により回答を求めたものである。

学生の出身地は全国的に分布しているが、関東地方及び東京都で、77.5%をしめている。(図1-1)

なお、出身高校は、公立校57%、私立校43%である。

家族構成は、両親健在、97%、母親のみ、3%で、姉妹（兄弟）がいるものが殆んどで、祖父・祖母同居しているもの37%である。

2. 調査項目

調査項目は次の各項目である。

1) 学生の日常生活での和服に関する質問として、6項目

△あなたは日常着としてどのような服装をしているか

△あなたが現在もっている和服はどのようなものか

△あなたは過去1ヶ年間に何回和服を着ましたか

△それはどの様なときですか

△あなたは和服が着られますか

△和服はもっと欲しいと思いますか

2) 被服構成実習に関する事項

△運針、入学以前と現在の状態について

△大裁女物単衣長着の実習に関する質問

今まで和服を縫ったことがありますか

一番苦心し、むずかしかった点はどこですか

提出期日について

仕上げ後の感想について

材料の準備について

家族の批評について

Ⅲ 調査の結果及び考察

(1) 日常着としてどのような服装をしているか、については、代表的な5項目をあげてみると、半数以上がジーンズを着用し、上はTシャツ・セーター・ブラウスである。その他の項の中には、ジャージ、ホットパンツ、トレーナーなどが含まれている。

(表1～1)

ジーンズ	ミニスカート	普通のスカート	ワンピース	着もの	その他
56.3 %	2.5 %	28.0 %	5.6 %	0.7 %	6.9 %

(2) あなたが持っている和服については、ゆかたは実習したものを含み全員が持っており、次にウール、の持ち数が多い。全体として、振袖、訪問着など、礼装・社交着としての要素のものが多く、年令的に親が常に近き将来の為に準備して、着用の有無はともかくとして、事前の用意万端整えている心構えが伺える。

和服の持ち数は、長着だけの枚数で、2枚—20%、3枚—30%、4枚—14%の順で、中には7枚以上持っているものもあった。平均して2～3枚の着ものを持っている。

(表1～2)

振袖	訪問着	つけさげ	袷	ウール	ゆかた	喪服
23.8%	12.9%	6.0%	17.3%	62.7%	100%	1.7%

(3) 過去1ケ年間に何回和服を着たかでは、1回～2回がもっとも多く、72%のものが着ている。

(表1～3)

全く着てない	1回	2回	3回	4回	5回	6回以上
8.2%	34.1%	38.1%	10.3%	1.7%	1.2%	2.9%

(4) どの様な時に着たかについては、正月に着たものが半数をしめて、改まる年のはじめに、自ら襟を正すため和服を着る習慣が残っている。またお祭、お盆といった年中行事に着用されており、和服に郷愁をさそう情緒が伺える。礼装としての用いられかたと、行事につながる日常着としての要素があらわれている。

また趣味ときもの関係を調べてみると、28名中、茶道16名、琴6名、日舞、華道、三味線などのけいこの時着用しており、中には着付け2名も含まれていた。

(表1～4)

正月	お盆	お祭	おけいこ	祝いごと
50.6%	34.2%	34.2%	4.8%	3.9%

(5) あなたは和服が着られますか、については着付けと帯むすび（文庫むすび）の指導をしたが、着付けの指導を徹底して行う必要がある。着付けは主として家人が手伝うか、専門家に着付けしてもらっている。

(表1～5)

ゆかたと帯	ウール又は袷と名古屋帯程度	礼 服 以 外 は 何 だ も 一 応 着 る
100 %	3.4 %	3 名

(6) あなたは和服がもっと欲しいか。

(表1～6)

余り欲しくない	欲 しい	数多く欲しい
13 %	78 %	9 %

2) 被服構成実習に関する事項

(1) 運針について、前回の調査では運針をしたことがあると答えたものが53年，91.5 %で技術・手法はともかくとして一応経験があるとみた。今回まず入学時は、運針が出来る程度を調査してみると、出来ないと答えたものが全体の45.6%あった。

(表2～1)

一応出来る	何とか出来る	出来ない
7.9 %	46.5 %	45.6 %

短大入学後運針は毎授業ごとに時間をかけ各人について指導を行った結果次のことが解った。

※新しく理解出来たこと

指の動かし方	22.0%
指抜き用の用い方	41.6%
布のうごかし方	13.8%
糸こきの方法	11.2%
運針のすべて	11.4%

※現在進歩したと思う点

早く縫えるようになった	28.6%
針目がそろう	24.8%
まっすぐに縫える	19.3%
指抜きをつかうコツがわかった	27.3%

運針は全く白紙の状態、針の選び方から指導し反復練習させることにより、各自が何らかの手法を会得してゆく。ちなみに、きき手は97%が右であった。

(2) 今までにきものを縫ったことがあるか、については、女ものゆかた、男ものゆかたなどで、全く縫ったことが無いと答えたもの 81.4%、縫ったことあるものが、18.6%、縫った時期は、高3、高2、高1、中3の順である。

(3) 大裁女物単衣長着の実習で一番苦心し、むずかしかったところを調べてみると、※裁ち方で、むづかしいと思ったところはなく、むしろ直線的で裁ち切る方法は洋裁とくらべて簡単と答えている。但し柄合せ、身長が大きい為の用布の不足をあげたものがある。

※標つけでは、衿のしるしつけがむずかしいとするもの、衿(ばちえり)、身頃の順であったが、特に困難に感じたものはなかった。

※縫い方では、衿つけが苦心したものが一番多く、続いてかけ衿で殆どがむずかしいと答えている。

袖袋縫い	3.8%
丸み	12.9%
袖口三つ折りぐけ	4.3%
背縫い	2.6%
肩あて、居しきあてつけ	7.8%
脇のしまつ	4.3%
衿つけ及びしまつ	9.1%
衿下すそぐけ	4.3%
袖つけ	3.0%
衿つけ	84.0%
かけ衿	18.2%

衿つけのむづかしいと思った点の内容としては、

待針の打ち方 …………… 43.7 %
 縫い方 …………… 26.4 %
 三つ衿芯 …………… 11.7 %
 衿先き縫い …………… 39.8 %
 えりぐけ …………… 2.2 %

待ち針の打ち方、衿先きの縫い方が苦心した点にあげられている。

※提出期限までに完成したものは、出来た… 82.8 % 出来なかったもの… 8.2 %
 かなり早く出来た… 9.0 % 何らかの型で手伝ってもらったかの間には、90%が自分の力だけで仕上げたと胸を張って回答している。

そうとう家人に手伝ってもらうのではないかという考えは殆ど無いと確信が持てる。

※縫い終わりの感想では、やはりむづかしいと卒直に云っていることからしても、学生たちに相当の負担がかかっていることが伺われる。

(表2～2)

むづかしい	やさしい	どちらともいえない
58.4 %	14.3 %	27.3 %

出来上がった時の感想として2項目選択では、

(表2～3)

嬉しかった	やれやれと ほっとした	もう二度と いやだ	機会があれば 又縫いたい	あんがい やさしかった
59.3 %	69.7 %	14.7 %	41.1 %	4.8 %

※材料の準備については、家族と自分で決め購入した場合が殆どで価格は、¥4,000～¥6,000が86%で中には¥8,000以上もあった。

(表2～4)

自分で購入	家族と相談して	友人と相談して	その他 (家にあったもの)
33.3 %	53.2 %	6.1 %	7.4 %

※家族の批評については

完成するか疑問と思っていたが、出来上ったので驚いた。…39%

よく努力したとほめられた…39.4%

注意された…8.6%

全体の半数が何の意見感想がないのは、夏休み帰省前の為と思われる。いずれにして家族が関心をもって見まもることが、学生にとっても大きなげみになると思われる。注意された内容は、技術的な面の指摘と、時間が、かかりすぎるといふ点が主なものであった。

※自分の感想では、縫い終った時の感想と重複するが自分の力のみで完成し感激した…81%がもっとも多く、出来上るかと不安であったと答えたものも多かった。やれば出来るという実感を味ったと思う。また、めんどろであきた、という表現もあり、時間がかゝりすぎるといふ点の指摘と考え合わせて今後の課題としたい。

IV む す び

「自らつくり」「着てみる」ためには、やはり基礎的な技術は、しっかり身につけさせることが何といても重要であるが、技術習得のために比重をかけすぎた過去の方法も十分反省し、そのためのみで学生の負担が多くなりすぎないように考える必要がある。昔のように、何枚も縫うことによって自然にこつを会得する方法でなく、現在の着る人にあった寸法の割り出し方、裁ち方、縫い方、とめ方、くけ方などこまかい部分については、何故こうすることが大切かを理論的に教える必要がある。

現在の週一回三時間の学習で、作品の数は少くとも、基本的な知識と技術は十分マスターできる。また従来の技法を習得した上で、ミシン縫いも併用し、一針づゝ縫うことの意義をふまえた上で、手縫いでは時間のかかりすぎるといふ点について簡略な方法もとり入れてゆかないと、すべてが速いテンポで動く社会生活の中にあつて、きものをつくることはめんどろという感覚を持たせてしまう一要因ともなりかねないのではないだろうか。

被服指導に問われる種々の問題は、現実を熟視して、まず興味を持たせる方法を考えなければならぬ。被服を「つくり出してゆく」過程に於て、ゆかたならば、着る人にあつた、色あい・柄ゆき、美しい着付け、帯・下駄に至るまでを含め、また礼服・晴着などの縫製は、専門家にゆだねるとしても、ゆかたや単衣、子供のきものなどは自身で手づくり出す。和服のT・P・O・しきたりや、着装のための小物の準備、なにがどのように必要かは勿論のこと、半衿がけなどは自らなすべき当然の心得と思う。昔「きぬえらび」と稱し、明日着るものを前日に揃え準備するとき、この着ものにこの帯、この帯にこの帯締めと帯あげと選んで用意する楽しさが女の喜びとされた時代もあつたが、そこまでゆかなくても、着る楽しさは十分に味えることが現代でも出来ると思う。

今回は新入学生の調査であるが、本学2年次生で、被服コースに進む学生は、非常に意欲をもって勉強する学生が多いことも事実である。「やればできる」という実感の反応は、またすばらしい。折角芽ばえた興味を更に助長させ、意欲を以て事にあたる姿勢を大切に育てるよう指導に当たりたいと思う。

(昭和55年9月)

(本学助教授 被服構成 } 担当)
和 裁